

第1回 TOKYO TEEN COHORT 講演会を実施しました。

2013年6月8日(土)烏山区民会館センターにて、「信頼しあう力を育むために」というテーマで、第1回講演会を実施しました。会場がいっぱいになるほど多くの方にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。お越しいただいた皆様、ありがとうございました。会場では、コホートグッズとして、布バッグ、ボールペン、クリアファイルをお配りしました。こちらも大変好評をいただきました。嬉しく思っております。

今後も、こうした講演会を行ってまいります。講演会の案内は、ニュースレターなどを通じてお知らせいたします。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。



ご住所変更連絡のお願い

転居等でご連絡先に変更のあった方は、同封の「住所変更はがき」に必要事項をご記入のうえ、個人情報保護シールを貼ってご返送ください。または、事務局までお電話ください。

■ お電話でのご連絡はこちらまで
(社)輿論科学協会「青春期の健康・発達コホート研究」事務局
Tel 0120-551-327(AM10:00~PM6:00)

TOKYO TEEN COHORT PROJECT

調査
お問い合わせ

社団法人輿論科学協会「青春期の健康・発達コホート研究」事務局
〒151-8509 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-8-6
Tel 0120-551-327 (AM10:00~PM6:00) 担当: 島田・井田

研究実施
機関

東京大学
公益財団法人東京都医学総合研究所
国立大学法人総合研究大学院大学

協力
自治体
窓口

世田谷保健所健康推進課
調布市教育委員会教育部指導室
三鷹市こども政策部児童青少年課

東京ティーンコホートの詳しい情報は
ホームページでもご覧いただけます
<http://ttcp.umin.jp>

ティーンコホート
TEEN COHORTとは?

思春期のお子さんの健康と発達の
過程をアンケート調査などにより、
科学的に検討するプロジェクトです。

東京ティーンコホート ニュースレター
第2号(2013年11月発行)
発行:公益財団法人東京都医学総合研究所

TOKYO TEEN COHORT NEWS LETTER

東京ティーンコホート
ニュースレター

Vol.2

2013.NOV

ご協力いただいた世帯が1500を超えました

2012年9月に始まった「青春期の健康・発達に関する調査(東京ティーンコホート)も、無事に1年を過ぎ、現在までの間に1550世帯からのご協力をいただくことができました。多くの方からの協力を得ることで、より良い調査になってきたと思います。みなさまのご協力に、感謝申し上げます。

このたび、ニュースレター(TOKYO TEEN COHORT NEWS LETTER)の第2号を発行することになりました。

このニュースレターでは、著名人からの東京ティーンコホートへの応援メッセージや、ここまでの調査で得られた結果、世界で行われている子ども研究の現状などをお知らせいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

なお、ニュースレター第1号は、東京ティーンコホートのホームページ上にも掲載してありますので、どうぞご覧くださいませ。

Contents

- ◇巻頭
応援メッセージ：黛まどか
- ◇コホートキッズ
困った時の相談相手は？
30歳までにやっておきたい事
- ◇～世界の子ども研究～ 今を知る
「思春期にIQが変化するって本当ですか？」
- ◇研究スタッフ紹介
- ◇巻末
講演会報告

応援メッセージ



サポーター
ファイル
03
俳人
黛まどか

2002年『京都の恋』で第2回山本健吉文学賞受賞。2010年4月より1年間、文化庁「文化交流使」としてパリを拠点に活動。現在「日本再発見塾」呼びかけ人代表、京都橘大学客員教授などを務める。

無料携帯メールマガ配信中。
<http://madoka575.co.jp/mm/>

思春期に受けた傷は人生のかけがえのない宝となり得る

生きるとは「変化」を受け入れることだと言った哲学者がいる。転職、転居、病、老化、そして死…人生は変化に満ちている。たとえ理不尽であったとしても、私たちはそれを受け入れながら人生を送らなければならない。折り合いをつけるのに必要なのは、自らの体験を通して得た知恵や、他者からのアドバイスとそれらを深く理解する能力だ。

とりわけ思春期は「変化」に溢れている。病や老化の代わりに心身が急激に成長し、心が過敏になる。この年頃の多くの子どもが、混沌とした心の裡を的確な言葉で表現できないことに苦しむ。私自身もそうだったが女子が男言葉を使うのもその表れの一つだと思う。大人の助言に素直になれないのも思春期の特徴だ。私が通っていた中学ではいじめや喧嘩が日常茶飯事だった。私自身もいじめられる側になったことも、いじめる側になったこともある。不良グループから呼び出された折の恐怖はやがて消えたが、一人の女の子をクラス全員で無視した折の自己嫌悪は「ほろ苦さ」となり、いつまでも消えることは

なかった。部活などをやっていなかった私には降り積もる鬱屈を吐き出す術がなかった。そんな時に寄り添ってくれたのは、亡き祖父母が残した言葉だった。生前日常の折々に言っていた何気ない言葉が、温もりと共に私を支えた。格言のような上等なものではないが、厳しい時代を生きる中で身を持って獲得した知恵からしみ出た言葉だったのだろう。

一方あの「ほろ苦さ」こそ心の贅を増やし、後に俳句をはじめとする多くの出会いに導いてくれたと思っている。思春期に受けた傷は、人生のかけがえのない宝と成り得る。しかしそれは傷を癒し昇華させるよう導く受け皿あつてのことだ。それは人であっても、スポーツや文芸・芸術などであってもよい。変化する身体や心に言葉が追いつかない思春期を自浄せしむる受け皿に出会うことが大切だ。思春期に煩悶した一人として、それとなく促し良い出会いに導いてあげられる大人でありたいと思っている。そして社会全体で彼等を見守ってゆく仕組みが必要だと思う。

知りたい!

コホートキッズって こんな子どもたち

コホートキッズとは? ... TOKYO TEEN COHORTにご協力いただいた世帯のお子さんのことです。

東京ティーンコホートのお子さんたち(東京ティーンコホートキッズ)が困った時に、受け皿として支えているのは誰でしょう? まだ途中段階ではありますが、1550世帯分のデータを報告いたします。

なにか心配なことがあるとき誰に相談する?(複数回答可)



- 1 お父さんお母さん **76.7%**
- 2 友達 **44.4%**
- 3 先生 **33.1%**
- きょうだい **17.3%** ○ 祖父母 **13.8%**

専門家の視点

10歳時点では、まだまだ親御さんが大事な相談相手のようです。一方、親御さん以外にも少しずつ相談の輪が広がっている様子がうかがえます。こうして、尊敬する先生をみつけたり、友達と相談したりされたりする関係を築いていくのですね。

ちよこっと DATA

基礎的な情報(1550世帯) 平均年齢: 10歳2ヶ月



男子		女子
137.3cm	身長	137.8cm
32.1kg	体重	31.6kg
14.2kg	右手握力	13.9kg
13.7kg	左手握力	13.2kg



男の子と女の子で、体格にはまだ差がないようです。ところが、将来の夢にはちょっと違いがあるようで...

30歳までに一番やっておきたいことは?

- | | |
|---|--|
| <p>男子</p> <p>1 やりがいのある仕事をすること 21.1%</p> <p>2 スポーツや芸術、旅行などで、自分の生活を充実させること 19.2%</p> <p>3 たくさんのお金を稼ぐこと 15.5%</p> | <p>女子</p> <p>1 やりがいのある仕事をすること 24.1%</p> <p>2 子どもを持つこと 19.2%</p> <p>3 恋人や結婚相手を持つこと 15.5%</p> |
|---|--|

専門家の視点

男の子も女の子も、やりがいのある仕事をしたいと思っているようです。体格ではまだ差がないのに、2番目以降の答えに、まるで大人のような違いがあるのが面白いですね。

「~世界の子ども研究~今を知る」では、世界中で行なわれている子ども研究の最新情報をわかりやすく解説していきます。

~世界の子ども研究~

今を知る

思春期に IQが変化するって 本当ですか?



知能指数(IQ)という言葉聞いたことがあるでしょうか。IQは、知的な能力を計るために最もよく使われる指標です。IQは、もともと、小学校入学前にテストを実施し、学校についていけない可能性の高い子を見つけ出して、その子たちに合った教育を与えるという目的で開発されました。この目的からもわかるように、IQは生まれつきで一生変化しない、というのがこれまでの科学の世界における「常識」でした。ですから、たとえば子どもの頃にIQを調べれば、今後の成績や就労状況が予測できると言われていました。IQの検査結果が、子どもたちの将来を左右することすらあったのです。

しかし、これをくつがえす事実をロンドン大学のプライス教授

の研究チームが発見し、2011年に、権威あるイギリスの科学誌ネイチャーに報告しました。研究チームは10代の男女を集め、およそ4年の間隔をあけてIQテストを2度行い、その間に思春期の青年たちのIQが大きく変化することを突き止めたのです。言い換えれば、IQは生涯変わらないわけではなく、成長に伴って変化しうるのである。彼らの研究に参加した子どもたちの中には、4年間でIQが20上昇した人もいました。これは、クラス平均よりも勉強の出来なかった子が学年一の秀才になるくらい、びっくりするような変化です。

このような結果を見ると、私たち研究者は「IQが変化するのはなぜなのか」を知りたくなるのですが、残念ながらまだはっきりとした原因は分かっていません。ヒトの脳の発達には早熟・遅咲きといった個人差があるために、1回のテストで単純には比べられないのかもしれませんが。適切な教育によって、ヒトの知的能力が大幅に伸ばせるのかもしれませんが。思春期になってますます複雑になる友だち付き合いが影響するという可能性も考えられます。たくさんの仮説が存在し、議論は尽きないところですが、いずれにしろ大切なのは、「子どもの能力をあまりに早いうちから決めつけると、未来の可能性が失われかねない」ということではないでしょうか。

思春期は多くの面で様々な変化が急激に生じる時期です。第二次性徴を迎えた身体は大きく様変わりし、自分とは何なのか思い悩む心が生まれ、少しずつ社会性を身に付けていきます。今回紹介したIQの上昇はほんの一例で、この時期は本当に「まだまだ分からないことだらけ」なのです。私たちのコホート調査は、思春期に注目することで、お子さんのよりよい成長を応援していきたいと考えています。

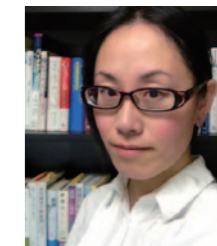
Ramsden et al. 2011 Nature
Verbal and nonverbal intelligence changes in the teenage brain

私は元々、教育学部の出身で、子どもの発達や教育には大きな関心を持っていました。ところが、なんのはずみか、社会心理学の先生に師事することになったのです。地道な実験を繰り返し、その結果をまとめて、博士号も取りました。さあ次に何をしよう...と思っていた時に舞い込んできたのが、偶然、子どもの発達や教育を考えることのできる今のお仕事でした。

5000世帯規模のお子さんの発達や成長を見守り続け、お父さんお母さんの子育てを支援する施策を提言する。それは私にとってあまりに大きな(そして華やかな)プロジェクトで、はじめは戸惑いもありました。地道な実験の方が自分には向いているのではないかと間違っていた施策を提言することになったらどうしよう?でも、あるとき気づいたのです。間違わないため

にこそ、きちんとしたデータを元に、しっかりと分析をしなければならぬ。そのためには、私がこれまでに身につけてきた知識が役立つんだ。—そう思ったとき、よしやろうと腹をくくることができました。今では、チームの皆と力を合わせ、東京ティーンコホートプロジェクトに専念することができています。順風満帆とはいきませんが、さまざまな苦労を皆で乗り越えていくことに、チームの結束が固まるのを日々感じています。

最後に、私事ですが、最近、初めて子どもを授かりました。嬉しさを感じると同時に、さてこの先自分はどうなるのだろうかと不安でよくよしてもいます。しばらく悩んだ後は、子育ての先輩方を見習いつつ、明るい気持ちで新しい命を大事に育てていきたいなと思っています。



森本 裕子
総合研究大学院大学
京都大学大学院教育学研究科
博士課程修了(教育学博士)